

柳井に「弘前ねぶた」登場

市観光協制作 金魚ちようちんと縁

3年ぶりに開催される柳井市の「柳井金魚ちようちん祭り」に向け、市観光協会が青森県弘前市の「弘前ねぶた」を制作した。金魚ちようちんは、江戸時代後期、商人の熊谷林三郎が北前船を通じて柳井に伝わった弘前の民芸品金魚ねぶたから着想を得て考案したとされる。祭り関係者は「祭りの盛り上げに一役買ってほしい」と期待を寄せている。

(横峯昂)



熊谷林三郎が描かれた扇ねぶた

本祭り13日 盛り上げに一役

白壁の町並みに飾られた多数の金魚ちようちんが見どころの祭りは、1992年に始まった。例年8万人超の観光客が訪れる夏の風物詩となったが、2020、21年は新型コロナウイルスの影響で中止された。今年は、規模を縮小して開くことにした。

ねぶたの制作は、祭りが昨年、30回目を迎えたことから、金魚ちようちんの歴史や弘前とのつながりを知ってもらおうと再開を機に観光協会が企画。弘前市のねぶた団体のメンバーから指導を受けながら、柳井市民の有志約50人が6月から作り始めた。

「扇ねぶた」と呼ばれるねぶたで、高さ約3・5メートル

幅約3メートル。7月中旬には、青森県からプロのねぶた絵師・松岡泰仙さん(24)を招き、地元の中高生とねぶたに貼る絵を描いてもらった。弘前市では、正面には三国志や水滸伝などの武将を描くのが一般的だが、松岡さんは「柳井の人たちに親しみを持ってもらいたい」と、金魚ちようちんを作る熊谷と子どもたちを題材にした。

ねぶたは6日夜から同市柳井の白壁の町並みの一角に展示されており、本祭りの13日にはJR柳井駅北側の本橋に設置される。

市観光協会の中野千帆事務局長(38)は「このねぶたは、柳井と弘前の交流の証し。金魚ちようちんの歴史を感じてほしい」と話している。

161
266
215
21
95
32
82
17
15
55
25
70
85
2
0
9
7
18
1
26

*居住地別

新型コロナウイルスの感染者数 8日発表分

コロナ1202人感染

最多5人死亡

死亡も発表され、1日当たりの死亡者数としては過去最多となった。

県と下関市は8日、新たに1202人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。県内の感染者数は8万6268人(うち93人は再発)となった。病床使用率は51・5%で、1月末以来の50%超。高齢者5人の

新規感染者の内訳は、10歳未満が193人で最多。10〜60歳代の各年代で100人を超えた。中等症3人を除き、いずれも軽症か無症状だった。

死亡したのは70歳代〜100歳以上の男女5人で、いずれも基礎疾患があった。県内の死亡者数は215人となった。

迎えた市とJR西日本が協議して、3色カラーの車両の復活を決定。市民らに懐かしがってもらおうことにしたという。

下関市の障害者施設で20人、萩市の医療機関で9人の感染がこれまでに判明

ローカル線支援を要望

県市長会 存廃協議の枠組みに警戒

再復活

などで



3色カラーの105系車両を前に笑顔を見せる桑崎駅長

旧暦 7月13日(先勝) 中潮
あすのこよみ
月齢 12.4
潮高は 満潮 潮高 干潮 潮高
広島港 17.38 296 2.16 164

天気
北部 西部 中部 東部 山口 南島 南
降水確率 10 10 0 10 10 0 20
最高最低 34 35 34 36 36 34 38